

よろずは

平成二十七年

六月号

歌碑めぐり 12

『万葉集』巻一の一七番歌・一八番歌

額田王の近江国に下りし時に作れる歌、井戸王のすなは

ち和へたる歌

味酒 三輪の山 あをによし 奈良の山の 山の際に い隠

るまで 道の隈 い積るまでに つばらにも 見つつ行かむを

しばしばも 見放けむ山を 情なく 雲の 隠さふべしや

反歌

三輪山をしかも隠すか雲だにも情あらなむ隠さふべしや

この二首は、大和から近江へ遷都する際に額田王が詠んだ歌として『万葉集』に伝えられています。もしそれが事実なら天智六年（六七）に詠歌されたこととなります。大和を離れるにあたって、三輪山が雲によって見えなくなってしまう様子を「隠さふべしや」と結句において強く否定しています。

実は桜井市内には、この二首もしくは反歌だけを刻んだ万葉歌碑が四基もあります。建てられた場所も、時期もまちまちですが、現代でも多くの人々に愛され続けている歌といえるのではないのでしょうか。

【万葉古代学係】

- ① 景行天皇陵の近く
山の辺の道の三叉路
(歌碑番号1)
- ② 桜井市芝運動公園
駐車場付近 (歌碑番号46)
- ③ 山の辺の道沿いに狭井川を
北へ渡った石のベンチがある
広場の前 (歌碑番号は番外)
- ④ 桜井西中学校の校内
(歌碑番号は番外)



タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。